

## 注射で改善、手術より負担少なく

### 高齢者中心に増加「デュピュイトラン拘縮」

指が曲がったままで伸ばすことができなくなる「デュピュイトラン<sup>デュピュイトラン</sup>拘縮」と呼ばれる病気が高齢者を中心に増えている。手のひらから指にかけて、しこりが太いひも状になって硬化する「拘縮索」ができるのが特徴だ。症状が進行しても痛みは通常ほとんどないが、「顔が洗えない」「指が引っかかりポケットにうまく手が入らない」など、日常生活にさまざまな支障が出る。

原因は不明だが、遺伝的要因のほか、糖尿病患者は発症リスクが高いとされている。また、北欧の白人男性に多いとされていたが、最近の研究によれば、日本人でも有病率は7～15%との報告があり、決してまれな病気ではない。

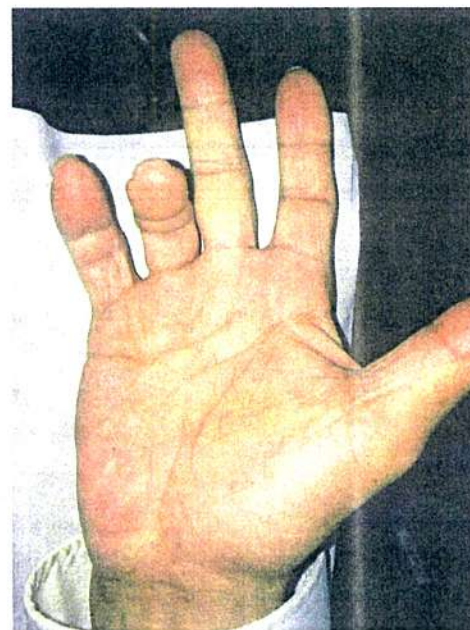
国際親善総合病院(横浜市泉区)整形外

科・手外科センター長の森田晃造医師は「超高齢社会を迎えている日本の患者数は今後さらに増加が予測される。また、痛みがないことから加齢によるものと考え、治療していない潜在的な患者さんは相当数いると思われる」と話す。

従来は、拘縮索を取り除く手術しか有効な治療法がなかった。入院が必要なほか、術後の合併症なども生じることがあり、満足のいく結果が得られないこともあった。

それが平成27年秋には、治療薬「サイヤフレックス注射用」(一般名コラゲナーゼ)が登場し、拘縮索への1回の注射で症状を改善できるようになった。

「拘縮した組織に注射をするだけで治療できる画期的な方法。手術に比べて体への



指が伸ばしにくくなる「デュピュイトラン拘縮」

負担が少ないことから、この薬を適正に使用すれば患者さんからも歓迎される治療法だ」と森田医師。症状など心当たりのある人は早く専門医の診断を受けることが大切だ。